

教室の窓から見えた木は11月半ばに真っ赤になった。その木も今では葉がすっかり落ち、木々が寒そうに感じる。あまりの気温の低さに冬の到来に少々構えてしまう。先日はついに気温がマイナス(単位:°C)となり、バス停の屋根に氷柱ができるほどである。歩道は寒さのあまりうっすら凍っており大変危険だ。それでも雪は降ることなく、この寒さでも雨が降るのは金沢と気候が違うからだ。今月中旬に Thanksgiving があり、11/17 から 11/25 の約一週間は休みだった。大学周辺は昼間でも人影がないほどすっかり静かであった。今月の報告書は生活の様子と、Thanksgiving 期間の出来事を中心に報告書をまとめる。

### —生の音楽に触れる—

私は毎月イリノイ大学(UIUC)の音楽科が開くオーケストラの演奏を聞きに行っている。学内のコンサートホールで行われ、UIUCの学生の一回の入場料が\$2から\$4と安い。きっかけはこちらで知り合った方が、このオーケストラでバイオリンを演奏していることを知ったからだ。音楽科内にはオーケストラが二つ、又は三つ結成され、その中の上級に所属する学生が演奏する。小学校以来のオーケストラの音楽に、過去とは違った感動を覚えた。約二時間の演奏は、本当に心地よく、こちらでの厳しい生活を忘れさせてくれる時間である。オーケストラによるクラシックと聞いただけで、身構えてしまうが、そのような緊張はなく聞くことができる。音楽のことはあまり詳しくないが、安い価格でこのように生の演奏を聴くことができる環境は素晴らしい。他にもジャズコンサートや劇にも出かけたことがある。五ヶ月ほど前の話になるが、夏至の日の夕方に学内の中心に位置する広場で同じように、オーケストラのライブがあった。このように身近に、低価格や時には無料で演奏や演劇などの芸術に直接触れることができるのは、勉強や研究をする場として、新たな発想のきっかけや気分転換になりとても良い環境であると思う。

### —体調を崩す—

ちょうどThanksgivingが始まる一週間前のことである。先に述べたオーケストラに出かけた日から、咳が出始め、ついに体調を崩してしまった。急激な寒さに体が音をあげたのか、これまでの疲れが出たのか。とにかく三日間は熱が下がらなかった。以前も微熱が出たことがあり、その時は何とか授業に出ることができたが、今回はとてもそのような元気はなかった。学内の診療所に行こうか悩んだが、その元気もなかった。今まで授業を休んだことがなかっただけに、欠席するのは嫌だったが、止むを得ないと思った。私同様にこちらで派遣留学を過ごしている、五十川君と中野君が心配して来てくれた。こういう時は心強いとつくづく感じた。しかし体調が回復すると、休んでいた間に授業内容が一変するものがあり、取り戻すのに苦労している。

### —Thanksgivingの期間—

再び授業に出席できるようになったが、Thanksgivingですぐに休みとなった。当初旅行に出かけようと思っていたが、計画を立てることもなくその日を迎えてしまった。ENG491のプロジェクト活動である、Formula Society of Automotive Engineers (F-SAE)のメンバーと共に前半の三日間を過ごした。

Thanksgiving初日は先にも述べたとおり、プロジェクトメンバーと共に昨年度に製作した車両でオートクロス大会に出場するため、学校から約一時間の所にある空軍の駐屯地に出かけた。オートクロスと言うのは、日本で言うところのジムカーナに似ているが、少し違うところはコースが決められていることだ。余談ではあるが、ジムカーナとは駐車場や自動車の教習所、サーキットコースを利用して、市販の一般車両で参加できるスピード競技のことである。パイロンなど目印となる物により走行順路を決め、一台ずつ走行しタイムを競うものだ。しかしそこにはコースというものはない。このオートクロスも同様にタイムを競うのだが、違うところはコースがパイロンにより区画設置されていることだ。私達はフォーミュラスタイルの自作車両だが、私達以外は一般車両である。出場者の半分近くが

スポーツタイプの日本車であった。この大会は年に数回行われており、今回が今年の最終戦だった。私は行っていないが私達のチームは夏にも参加していた。しかしクラスとしては認められていない。参加者の中には中学生ぐらいの子供が一般車を運転していた。限られた敷地内での走行なので構わないのだろうが、日本ではなかなかありえないことだと感じた。私は運転することができないので、チームのサポートとして出かけたが、メンバーと交流できて楽しい一時となった。

残りの二日間は、プロジェクト内のドライバートレーニングとマシンテストに出かけた。学内にある多目的ホールの駐車場が、私達プロジェクトのマシンテスト兼ドライバー練習場となっている。マシンは今年の大会に出場したものに、日々手を加えたものでテストを重ねて次期車両の参考となる実験を行った。ドライバートレーニングには125[cc]のKartを利用している。私はドライバーになることはないと思うが、9月終わりころから始まったこのトレーニングに、かれこれ数回参加している。Kartといっても侮れない。変速できるものでかなりの速度が出る。こちらに来て車を運転することがないが、唯一運転できる乗り物の一つだ。

一週間の半ばになると、メンバーの多くが自宅に帰省するか、旅行に出かけるなどして休みを過ごしたと聞いた。私は旅行に行くことなく寮に留まり、買い物や散髪に出かけるなど日常生活と変わらない日々を過ごした。先にも述べたとおり、大学周辺は静かであった。忙しい毎日から解放されて、大学周辺を観察すると、日ごろ気付かないことに発見があった。

### —こちらの小、中学生と高校生—

Thanksgiving半ばに、私は散髪に行った。その美容院は日本人女性が行っている。彼女は1990年からこちらで美容院を開いており、こちらの生活について色々伺うことができた。その中で興味深かったのが、こちらの高校生についてだ。彼女が言うには、こちらの高校生はとても大人びているということだった。日本と違い制服がないことも影響しているようだ。同じように化粧や飾り物などをしていないことは変わらないという。何が影響しているかという、車を持っていることだ。イリノイ州の州法では16歳から自動車免許を所持できる。そのため高校へ通うのも自動車を利用するという。大学周辺はバスが頻繁に往来しているが、少し郊外に出ると車なしでは生活できない。そのような環境からも自動車を持つようになるのだろう。しかし車を持つことで活動範囲が広がる分、責任が生まれると思う。そのようなことが大人びていると見えるのかもしれない。他にも興味深い話の中に、子供のしつけの話がある。こちらで子供に手をあげるとどんな理由であろうと、訴えられるということだ。これは親や祖父母も同じであるという。彼女が言うには、つい先日近くのスーパで自分の子どもを打った母親が訴えられたというのだ。通報したのが、そのスーパーの監視員というから驚いた。ちょうど車の中で子供を打っていたところを、駐車場の監視カメラが撮影していたという。

このような話を聞いた後、私はバスに乗って寮に帰ったのだが、その時の路線はちょうど小中学校の前を通るものだった。バスは学校前で止まると、学生たちがにぎやかに乗ってきた。学校前には警察官や学校の教員が生徒の誘導や安全から守っているようだ。しかし、彼らはバスの中で大騒ぎである。迷惑極まりなく話しているが誰も注意しない。日本も近年注意する人が少なくなったということが話題になった。私は先程の話を思い出した。ここでは子供にどのような方法でしつけをしているのか疑問に思った。打たれるという罰がないから、騒いでいる子どもたちができるという簡単な方程式を作ったわけではない。しかし子供たちはどのように社会に溶け込むのだろう。人との関係を気づくにはそれなりの守るべきことがあると思う。そこには私にはわからない方法があるのかもしれない。

今回の報告書は、ほとんどがThanksgivingの間の行動や感じたこととなってしまった。12月の前半で今学期の授業が終了し、学期末試験や最終提出レポートがある。寒い時期は始まったばかりだが、体に気をつけて励んでいこうと思う。次回は来学期の履修科目と、今学期の履修で感じたことを報告したいと思う。